

授業科目名： 運動学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小倉晃布 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
「学位授与の方針」との関係			
DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 人間の運動を研究する方法について、自然科学的方法と人間学的方法の違いを理解する。</p> <p>(2) スポーツ運動学の基本的な理論（運動感覚意識・コツ・カンなど）を理解する。</p> <p>(3) スポーツ運動学を支える3つの領域（構造・発生・伝承）について理解する。</p> <p>(4) スポーツ運動学の立場から、指導者に求められる専門的能力について理解する。</p>			
授業の概要			
<p>運動学とは、マイネルの「スポーツ運動学」（1960年）がその基礎であり、運動学習・指導の現場に役立つ実践的な運動理論として認識されている。人間のスポーツ運動を自然科学的立場からではなく、学習者・指導者の運動感覚的世界に迫る人間学的立場から分析、統合する理論体系である。本授業では、体育教師やスポーツ指導者に必要な専門的能力やスポーツ運動学観点からの考察法などについて理解を深めることをめざす。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「運動学」とは何か（1）人間の運動研究の方法 第2回：（2）現場で求められる研究 第3回：スポーツ運動学の基礎理論（1）「人間の運動」と「機械の運動」 第4回：（2）運動感覚意識、コツ、カン 第5回：スポーツ運動学における3つの領域 第6回：動きの構造（1）運動構造とは 第7回：（2）運動の外的構造 第8回：（3）運動の内的構造 第9回：動きの発生（1）習熟位相 第10回：（2）マイネルの習熟位相論 第11回：（3）金子の形成位相論 第12回：動きの指導（1）運動観察 第13回：（2）運動処方 第14回：指導者に求められている専門的能力について 第15回：まとめ 科目修得試験</p>			
スクーリングでの学修			
<p>スポーツ運動学における基本的な考え方を概観し、自然科学的立場と人間学的立場からの人間の運動認識の違いを理解する。また、スポーツ指導の現場における指導者の専門的能力について理解を深める。</p>			
テキスト			
三木四郎：『新しい体育授業の運動学』明和出版、2005年、4-901933-07-8			
参考書・参考資料等			
<p>(1) 教師のための運動学（監修）金子明友（編）吉田茂・三木四郎 大修館書店 1996年 (2) 運動学講義（編著）金子明友・朝岡正雄 大修館書店 1990年 (3) スポーツ運動学入門（著）金子一秀 明和出版 2015年</p>			
学生に対する評価			
スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			